

## 2023 年度における経営陣等と株主との対話の実施状況等について

2023 年度は、以下のとおり、株主と対話を実施しました。

<b>株主との対話の主な対応者</b>	取締役 専務執行役員、執行役員、IR 担当部長、IR 担当
<b>対話を行った株主の概要</b>	国内機関投資家、個人投資家
<b>対話の主なテーマや株主の関心事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社のビジネスモデル</li> <li>・当期業績の推移</li> <li>・中期経営計画の概要</li> <li>・2024 年問題を含めた持続可能な物流について</li> <li>・株主還元や P B R を含めた資本政策の考え方</li> <li>・議決権行使基準について</li> <li>・E S G への取組み</li> </ul> <p><b>特に株主から気づきが得られた対話、経営陣等の説明により株主の理解を得られた対話の事例</b></p> <p><u>当期業績について</u></p> <p>倉庫業は自動車部品関連商材の取扱増加、連結子会社の本格稼働が寄与したことにより好調に推移。港湾運送業についてもセグメント内の区分変更の影響により減少したが、順調に推移。一方で、国際輸送業においては、前期は海上運賃の高騰による影響で売上利益が大幅に増加したが、当期は海上運賃の正常化に伴い、極めて低調に推移。</p> <p>経常利益についても、大型新拠点の稼働に伴う一時費用の増加、販売費および一般管理費の増加、持分法による投資利益ならびに為替差益の縮小が影響。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会インフラとしての当社物流サービスの重要性について</li> </ul> <p><u>2024 年問題に対する取組みについて</u></p> <p>オーダーの早期化、時間指定の撤廃・緩和、待機時間・積込時間の削減に向けたパレット化、複数の集荷場所から自社倉庫への集約（引き出し）などムダの削減、効率化へ取り組む。特に、新しい取り組みとして、三重朝日物流センターにおいて、トラックの搬入時間を事前に予約する『トラック予約受付システム』を導入。</p>

事前予約をすることで倉庫側の作業平準化を図るとともに、トラックドライバーの待機時間を削減することが可能。  
また、モーダルシフトの取り組み、コンテナのラウンド輸送の取り組み、当社物流拠点を活用した S P の設置、システムの開発等にも注力。モーダルシフトの取り組みとしては、過去から鉄道輸送、内航船輸送を活用したサービスの提供を行っているが、更なる促進を図るために利便性を高める取り組みを実施。

(JR 貨物鉄道株の 31feet コンテナを用いた鉄道輸送や四日市港での RORO 船の誘致活動等。)

また、全国にわたる当社の物流拠点やパートナー会社の拠点を活用した、取引先にとって最適な物流拠点の提案、提供実施

#### 環境課題および地域課題に貢献する事業活動について

- ・取引先との協業により、半導体の製造過程で使用される特殊化学品のトラックによる輸送手段に鉄道輸送を組み込むなどのモーダルコンビネーションの運用を本稼働
- ・化学品物流では拠点間輸送における R O R O 船、鉄道の本格的な活用開始
- ・TCFD 提言に基づく情報開示に向けて SCOPE 1・2・3 の算出
- ・複数の大型物流センターに太陽光発電システムを敷設。発電電力を当社グループの他拠点においても再生可能エネルギーとして利用できるスキームを導入
- ・地域企業との協働で従業員による海岸清掃や里山保全などの生物多様性への取り組み実施
- ・物流施設におけるビオトープを活用した生物多様性推進ならびに子供の教育・地域交流への貢献
- ・環境にやさしい発電燃料であるバイオマス燃料を取扱う専用センターの運営
- ・クリーンエネルギーに向けた取り組みとして CO2 フリー電気の調達やみえ水素ステーション合同会社による移動式水素ステーションの運営
- ・環境に優しい輸送手段として、鉄道および内航輸送を活用したバルクコンテナ輸送やコンテナラウンドユースの導入、リサイクル物流、海上コンテナシャーシ管理システムの導入、車両の大型化・パレット化等
- ・非常食の NPO 法人への寄付ならびにリメイク活動によるフードロスの削減、社会への貢献
- ・災害時における施設利用に関する支援協定締結による地域貢献
- ・地域における SDG s 推進活動
- ・従業員全員参加型のサステナビリティ活動実施

	<p>株主還元やPBR1倍超に向けた資本政策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PBR1倍超を達成し、企業価値を向上させるための施策について</li> </ul>
対話において把握された株主の意見・懸念の経営陣や取締役会に対するフィードバックの実施状況	IR推進委員会事務局が対話の概要をまとめ、IR推進委員会に上程するとともに取締役が出席するサステナビリティ委員会で報告。
対話やフィードバックを踏まえて取り入れた事項	ホームページのリニューアル、KPI開示等の開示の充実、ホームページへのサステナビリティへの取組みの記載充実
その他の対話	決算説明会（オンデマンド配信）の実施、サステナビリティレポート等での情報の開示等